



| | |
|--------------|---|
| Title | 目で見るWHO 第73号 表紙・目次等 |
| Author(s) | 太田, 謙司 |
| Citation | 目で見るWHO. 2020, 73, p. 1-1 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/86523 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

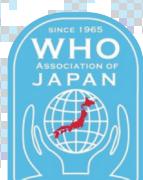
<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

目で見る WHO

2020 夏号

No.73



公益社団法人
日本WHO協会

CONTENTS

| | | |
|--------|--|--------|
| P1 | ごあいさつ | 太田 謙司 |
| P2-5 | 巻頭特集 世界のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ | 西田 良子 |
| P6-9 | セミナー・イベント 外国人にとって安心で安全な大阪の医療を目指して | 新垣 智子 |
| P10-13 | 外国生まれの結核患者の増加とその対策を考える | 井戸 武實 |
| P14-17 | 関西グローバルヘルスの集い オンラインセミナー COVID-19とSDGs (第一回) | 中村 安秀 |
| P18-19 | WHO協力センター 金沢大学 | 金子 周一 |
| P20-21 | 量子科学技術研究開発機構 | 立崎 英夫 |
| P22-23 | 東京医科歯科大学 | 中村 桂子 |
| P24-25 | NGO紹介 シェア=国際保健協力市民の会 | 仲佐 保 |
| P26-27 | WHO職員日記 村の診療所からWHOへ | 座光寺 正裕 |
| P28-33 | WHOニュース 2月/3月/4月 | |
| P34 | WHO地域事務局と管轄エリア | |
| P35 | お知らせ | |
| P36 | 日本WHO協会沿革 | |
| P37 | WHO憲章 | |
| P38 | 編集委員のページ | 山田 絵里 |
| P39 | WHOインターンシップと日本WHO協会による支援助成制度 | |

ごあいさつ



日本WHO協会理事
大阪府歯科医師会 会長
太田 謙司

現在、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい人類を震撼させています。世界中で多くの尊い命が奪われ、多数の感染者が出ていることに、謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。

この世界的なパンデミックに人類が立ち向かっている今、世界保健機関（WHO）が果たす役割は言うまでもなく絶大であり、そのWHOの活動や情報を迅速かつ適切に伝える使命を担っている日本WHO協会は、まさにその真価を問われていると言えるのではないか。歯科医師会としても、この感染症との戦いに対し、あらゆる対策を講じているところであり、できる限りの協力を惜しむものではありません。この感染症の一日も早い終息を願います。

今回の脅威によって、国民の健康が担保されなければ経済活動そのものが危機に陥ることを、為政者をも含め国民の多くが肌で感じたのではないか。WHO憲章の前文では、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と定義しています。国を挙げてこのウイルスに打ち勝ったそのあつきには、経済・財政一辺倒の政策が改められ、国民のまさに「健康」が第一の政策に方向転換されることを願ってやみません。そのために、

我々も力を尽くしてまいります。

歯科界においては、2017年以来3年連続して国の基本方針である「骨太の方針」の中に歯科の文言が明記されるなど、歯科医療・保健の重要性や口腔の健康と全身の健康の関連性についての国民の理解が徐々に広がってきています。

一方で、「骨太の方針」でも触れられているフレイル対策をはじめ、多くの場面で多職種連携が求められていますが、その実態はまだ不十分であると言わざるを得ない状況であり、今後、歯科医師会は他の医療福祉団体との連携をさらに深め、在宅歯科診療や居宅療養管理等のニーズに応えるべく、これまで以上に努めてまいります。

大阪府歯科医師会は今後も、国民の口腔健康管理を通じて健康寿命の延伸に貢献すると同時に、日本WHO協会と緊密に連携・協力することで世界の人々の「健康」を守ることに寄与するよう取り組んでまいります。どうか、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2020年7月